

シネラ

シネラ・ニュース
September.2000 No.50

特集

日本映画名作選

特集

私が勧めるこの一本



尾道。

行ったことないけどなつかしい気がするところ。

「さよなら私。」「さよなら俺。」今ならこのセリフの意味がわかる。

思いっきり自転車をこいで、あの青春の日々に、会いに行こう。

「転校生」 イラスト&文:山下良平

特集 福岡在住の映画関係者によるお勧め映画の特集

私が勧める

この一本

会期：9月20日(水)～24日(日)

観覧料：500円(大人)

400円(大学生・高校生)

300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

山村謙一氏推薦

友成純一氏推薦

緒方用光氏推薦

梁木靖弘氏推薦

能間義弘氏推薦

20 水 14:00 22 金 19:00

隣の八重ちゃん

1934年/16ミリ/モノクロ
77分/松竹

監督：島津次郎

出演：逢初夢子



高校生の八重子は、隣の家に住む大学生の恵太郎、高校生の精二兄弟と仲が良く、特に恵太郎にほのかな恋心を抱いていた。ところが八重子の姉の京子が、結婚先から出戻りをしてくる。京子は恵太郎と仲良くなり、八重子は気になってしかたがない。

(悠飛社)がある。

山村謙一

20 水 19:00 23 土 祝 11:00

北京オペラブルース

1986年/35ミリ/カラー
105分/香港/日本語字幕

監督：ツイ・ハーク

出演：ブリジット・リン



1913年、辛亥革命直後の中国では、軍閥達が我が物顔に振る舞っていた。軍閥の將軍の娘に生まれたツォワンは、男と対等に行動するために男装し、革命派に身を投じるのだった。京劇の劇団を絡めてアップテンポで描く娯楽作品。

友成純一
1954年生まれ。早稲田大学卒業。福岡市在住の作家、映画評論家として活躍中。主な小説に「陵辱の魔界」(幻冬舎文庫)「文庫」(幽霊屋敷)「角川ホラー文庫」(電脳旗幟)「ぶんか社」等多数。また評論集に「臆病」(ベネクトル工房)「暴力」(角川)「名画座」(洋泉社)等がある。

21 木 14:00 23 土 祝 15:00

スケッチ・オブ・Peking

1995年/35ミリ/カラー
100分/中国/日本語字幕

監督：ニン・イン

出演：リー・チャンホー



クオは北京市警察徳勝門分署に7年勤務するベテラン警官。クオは新しく配属された新人警官に管轄内の仕事を教える。またある日、狂犬病の野良犬が発見され、署では「飼犬禁止令」を出し、各家を調査して回る。警察官の日常が淡々と描かれた作品。

緒方用光
1924年生まれ。久留米市宮ノ陣町出身。42年旧制旅順中学校卒業後、満洲映画協会養成所に入所。44年満洲映画科学研究所に勤務。終戦後は瀋陽にてソ連留帰国後、独立映画「日本へハルド映画九州へハルド映画を経て現在九州ハルドエンタープライズ代表取締役。アジアフォーカス福岡映画祭実行委員。

21 木 19:00 24 日 11:00

私が棄てた女

1969年/35ミリ/パートカラー
116分/日活

監督：浦山桐郎

出演：河原崎長一郎



自動車部品の会社に勤める平凡なサラリーマンである主人公は、出世のために愛してもいない専務の娘と結婚しようとしていた。そんなとき、かつて遊びでつきあった女が、自分の子を宿した後中絶しており、経済的に困窮していることを知る。

梁木靖弘
1952年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。九州大学教養部非常勤講師を経て、93年に九州大谷短期大学助教授となる。97年からフリーの演劇・映画評論家として活動する。著書に「聖なる怪物たち」(せきたる書房)「モナムール」(マック)「読書に映画について」(ジャン・コクトー著、フィルムアート社)等がある。

22 金 14:00 24 日 15:00

二十四の瞳

1954年/35ミリ/モノクロ
155分/松竹

監督：木下恵介

出演：高峰秀子



昭和3年。瀬戸内海小豆島の分教場に赴任してきた女性教師と、12人の生徒の18年にもわたる交流を描いた作品。20代から40代までの主人公の大石先生を、高峰秀子が見事に演じ、戦争の悲しさを伝える日本映画史に残る傑作。

能間義弘
1917年生まれ。37年旧制商業学校卒業後、三菱鉱業株式会社入社。77年に三菱建設株式会社を定年退職する。少年期より映画を愛好し、昭和40年代よりテレビ等で映画解説を行ったり新聞に執筆をするようになる。72年キネ旬友の会を結成し会長となる。郷土の映画史家として活動し現在に至る。著書に「図説福岡県映画史」(国書刊行会)がある。

FOCUS ON ASIA 2000
FUKUOKA INTERNATIONAL FILM FESTIVAL

アジアフォーカス・福岡映画祭2000

西暦2000年という節目の年に10回目を迎え、アジア15か国・地域からの最新作、話題作および日本未公開作22作品に、特別企画「アジアフォーカス傑作選1991-1999」を加えた31作品他を上映。

開催期間：2000年(平成12年)9月8日(金)～17日(日)

※一般上映は9日(土)から

開催場所：ソラリアシネマ1(中央区天神2-2-43)

エルガーホール(中央区天神1-4-2)

都久志会館(中央区天神4-8-10)

福岡アジア美術館あじびホール(博多区下川端3-1)

主催：アジアフォーカス・福岡映画祭実行委員会、福岡市

問合せ先：NTTハローダイヤル(TEL.092-771-8600)

平日9:00～20:00 日祝日9:00～17:00

Focus on Asia
Fukuoka International
Film Festival

協賛企画「CINEMA LIVE! 日本映画の未来形」

日本の若い世代の作品を中心に上映。あんにょんキムチ「映画の天使」他全9作品。ゲストを招いてのトークライブも予定。

特別企画「アジアフォーカス傑作選1991-1999」

これまでの映画祭で上映し、その後総合図書館がプリントを保存している作品の中から9作品を、製作会社などの協力を得て上映します。

家族、夫婦をテーマに描く

家族、夫婦といった普遍的な題材の作品も並んでいます。ベトナムの砂のような人生は戦争で別れ別れになり重婚になってしまった男女の心の葛藤をモンゴルの「愛のさだめ」は病んだ妻への夫の愛情をインドの悲哀は哀しい老後の姿を通して今日の社会問題を描きます。

20世紀のアジアの歴史を知る

各国の歴史を映画から知ることができます。スリランカの「サロジャ」は民族対立による内戦を少女の眼から問うています。台湾の「天馬茶房」は国民党による知識人の弾圧を時代背景にした恋愛物語。タイの「少年義勇兵」は日本軍と戦った高校生志願兵の奮闘記。韓国の「ペーパードキメント」はある男の20年の歳月を韓国の歴史に重ねて描きます。

ティーンエイジャー・子どもが主役

子どもや若者を主人公にした作品が多いのも今年の特徴です。「スニカー」の少女は豊かな階級の少女の大人への抵抗を描き、イラン映画の新しい一面が感じられる。同じくイランの「さや」は、ストリートチルドレンの生き方を描く。中国の「草の家」は農村の小学校の日常を通して見た痛切な作品。チベットの「ザ・カッパ」(返魂)は少年僧たちがサッカルに夢中な様子をコミカルに描く。日本の「あかね色の空を見た」は不登校の問題を真摯に見つめています。インドの「青いマングロー」は「河は流れる」は、いずれも純粋な少女が親戚の家で育つていく姿を描いたものです。

21世紀を担う新世代

次世代の担い手となるべき新しい監督たちの作品が登場。ネパールのツェリンリ・タル・シェルバ監督「ブルー」初長の長編映画を撮り上げた高僧でもあるケンツェン・ルンポ監督「南から来た少年」で東京国際映画祭ヤングシネマでゴールド賞を受賞したイランのバルヴィズ・シャヤバズ監督「グリーンフィッシュ」で鮮烈なデビューを飾った韓国のイチヤンドン監督「インドのマサラ」ムービーの新鋭手、サンジャイ・リラー・パンサーリ監督「ワン・レン」、コイ・チョン監督「下で経験」を積んだ台湾の実力派、チャン・ティオン監督。

インド映画コレクション2000

福岡映画祭なじみの監督の登場
福岡映画祭を振り返るうえで欠かせない3人の監督たちの最新作を上映。G・アラウイン監督の撮影監督からキャリアをスタートしたシャージ・N・カル監督の「最後の舞」フレイビッド監督を国際的に牽引するマリル・デイス・アバヤ監督の「ムロアミ」100本近い作品を残して韓国に帰国した韓国の監督イム・クォンテクの「春香伝」。

「ミニシアター」の発生は1961年に日本アート・シアター・ギルド(略称日本ATGまたはATG)が東和映画と東宝株式会社の出資で発足した、このATGの上映館は東宝系列の中でも座席数の少ない劇場をATGの作品の上映館として使用した、これが今日の「ミニシアター」的なものの始まりだと考える。

作品として良質なものであっても興行的に難しいと考えられる作品を扱った。洋画では「尼僧ヨアンナ」1961年監督イエジー・カワレロウィッチ、「オルフェの遺言」1959年監督ジャン・コクトー、「イワン雷帝」1946年「戦艦ポチョムキン」1925年監督セルゲイ・M・エイゼンシュテイン、「市民ケーン」1941年監督オーソン・ウェルズ、「気狂いピエロ」1965年監督ジャン＝リック・ゴダール、「大地のうた」1955年監督サタジット・レイなど、映画が製作されている国を代表する監督たちの作品が網羅されて上映された。

また日本映画でも良質の作品に資本を投下し製作したり、公開に協力した、伊丹十三監督の出世作「お葬式」、勅使河原宏監督の「砂の女」、岡本喜八監督の「肉弾」、羽仁進監督の「初恋・地獄篇」、大島渚監督の「絞死刑」など異色作、問題作を提供している。

ATGの場合はまだ邦画的な感覚で全国チェーンを作っていくような感覚で各地にATGの上映館を作りまたアート系の作品を好む観客たちがATGを中心とした鑑賞、自主上映団体を各地に作っていった。

福岡でのATGの上映劇場は中州にあった宝塚会館7階の東宝シネマ2で上映されていたが、現実にはローカルでのアート系の作品の動員は難しく、特に大手企業の劇場では経費がかかりすぎ、ATGの系列から脱落し、ATGの作品はフリーブッキングで上映されるようになった。

このATG運動を継承する形で1974年から始まるエキブ・ド・シネマ(映画の仲間・通称エキブ)運動も全国各地の鑑賞団体を刺激することになった。このエキブ・ド・シネマの中心になったのが岩波ホール(座席数232・1968年創立)であり、岩波ホールの高野悦子支配人であり、川喜多かしこ氏であった、ここで初めて現在云われている「ミニ

シアター」が出現したわけである。

エキブでは「大樹のうた」「大地のうた」「大河のうた」などのインド映画を皮切りに宮城まり子の「ねむの木」の詩」とつづき現在まで26年間にわたり良質で興行的に難しい作品の公開に努力を払って今日に至っている。



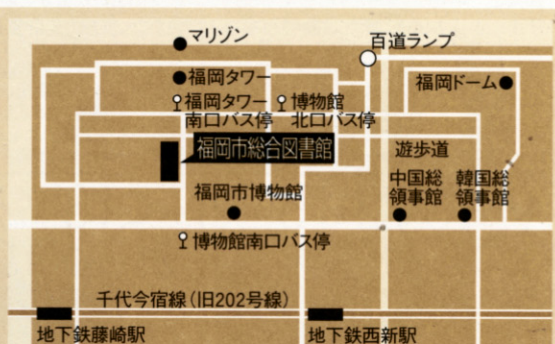
KBCシネマ1・2

その後アメリカ映画の巨大化と興業形態の変化のなかでヨーロッパ映画、アジア映画、日本の独立プロ等の上映場所としてミニシアターが増加していく、東京では「シネマスクエアとうきょう」(座席数224)が誕生する、その後「ユーロ・スペース」「ル・シネマ」「シネマ・ライズ」「シネスイッチ・銀座」など次々と増えていき30館を数えるほどになった。劇場の数が増えるとともにアート系の作品も需要が増え、小規模ながらそれぞれ個性をもった配給会社が増加している。

福岡では1981年4月「大洋シネサロン」(中州大洋4で現在は一般作品を上映)が福岡最初のミニシアターとして開館したがその後親不孝通りに「シネテリエ天神」ができ現在は廃業してしまったが西通りに「キノ1・2」と言う劇場があった、また長浜通りに「KBCシネマ」(現在は道路を隔てた所に「KBCシネマ1・2」として営業中)が開館、平成9年に百道浜のTNC会館内に「シネサロン・パヴェリア」が岩波ホールの番組を中心に営業を始め柿落としに小栗康平監督の「眠る男」が上映された、その後「シネリーブル博多」、「シネリーブル博多駅1・2」と7館のミニシアターが営業している。

九州ヘラルドエンタープライズ代表取締役 緒方用光

1 金	休 映 日
2 土	自主上映「雪之丞変化」
3 日	自主上映「ウェイクアップ! ネッド」
4 月	休 館 日
5 火	休 映 日
6 水	14:00 ほろよひ人生 19:00 本日休診
7 木	14:00 浪華悲歌 19:00 妻は告白する
8 金	14:00 秋刀魚の味 19:00 ほろよひ人生
9 土	11:00 幕末太陽傳 15:00 赤い殺意
10 日	11:00 浪華悲歌 15:00 赤い殺意
11 月	休 館 日
12 火	休 映 日
13 水	14:00 緋牡丹博徒・お竜参上 19:00 八月の濡れた砂
14 木	14:00 転校生 19:00 幕末太陽傳
15 金	11:00 本日休診 15:00 妻は告白する
16 土	11:00 緋牡丹博徒・お竜参上 15:00 秋刀魚の味
17 日	11:00 八月の濡れた砂 15:00 転校生
18 月	休 館 日
19 火	休 映 日
20 水	14:00 隣の八重ちゃん 19:00 北京オペラブルース
21 木	14:00 スケッチ・オブ・Peking 19:00 私が棄てた女
22 金	14:00 二十四の瞳 19:00 隣の八重ちゃん
23 土	11:00 北京オペラブルース 15:00 スケッチ・オブ・Peking
24 日	11:00 私が棄てた女 15:00 二十四の瞳
25 月	休 館 日
26 火	休 映 日
27 水	休 映 日
28 木	休 映 日
29 金	休 映 日
30 土	月 末 休 館 日



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神→都市高速経由→福岡タワー南口(所要時間 昼間で約20分)
博多駅→都市高速経由→福岡タワー南口(所要時間 昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。
お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑誌

今月は恒例の日本映画名作選、アジアフォーカス・福岡映画祭でアジア映画の傑作を楽しみ、シネラでは日本映画の名作を堪能していただきたい。ところで、映画祭は今年10回目、シネラは開館5年目を迎え、そしてシネラ・ニュースも今回で50号となりました。そこで、もう一つの特集は、映画関係者が図書館収蔵作品から選んだ私が「勤めるこの1本」に誰にも私が「勤めるこの1本」があるはず。さて、あなたの1本は……?(M・Y)

ミニシアター

Hear My Song

1991年/カラー/105分/日本語字幕なし
監督/ピーター・チェルサム/Peter Chelsom
制作/アリソン・オーウェン・アレン/Alison Owen-Allen
出演/ネッド・ビーティー/Ned Beatty
エイドリアン・ダンバー/Adrian Dunbar
シャーリー・アン・フィールド/Shirley Anne Field
タラ・フィッツジェラルド/Tara Fitzgerald
ウィリアム・フットキンス/William Hootkins
デイビッド・マカラン/David McCallum

1980年代、人気ロックシンガーロッキーがリパブルに戻り、落ちぶれたナイトクラブを立て直そうと奮闘する。同時に彼は元の彼女とよりを戻すことになるのだが、彼女は彼の異変に気付く。1992年にブリティッシュ・コメディアウオードの最優秀作品賞受賞。

日時: 9月9日(土)14:00~

会場: 福岡市総合図書館ミニシアター
観覧料: 無料

お問い合わせ/092-752-3750ブリティッシュ・カウンシル福岡

各団体の自主上映

- 9月2日(土)11:00/14:00
「雪之丞変化」(監督:市川崑)
観覧料/前売:1,000円、当日:1,500円
主催/W.L.C福岡
(Tel. 092-741-7687瓜生史郎)
- 9月3日(日)11:00/13:30
「ウェイクアップ! ネッド」
(監督:カーク・ジョーンズ)
観覧料/前売:1,500円、当日:1,800円
シニア・中高生:1,000円
主催/福岡映画サークル協議会
(Tel. 092-781-2817)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成12年10月号〜平成13年3月号までの郵便切手(90円×6月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。
宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>